地区名：上庄地区

実施主体：上庄地区各種団体連絡協議会

１　基本データ

〇地区人口　　3,589 人

〇地区世帯数　　1,124 世帯（R2.4.1 現在）

〇地区面積　　約 262.3 ㎢

〇地区の沿革

上庄地区は、32 の集落（行政区）で構成されており、地勢的には市街地南部に位置し、日本百名山の１つ荒島岳のふもとで、東西約６㌔㍍、南北約 12 ㌔㍍ほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。

〇実施主体　上庄をよくするつどい

２　現状と課題

地区の特性として、学校区が当地区と同じであり、認定こども園、小学校、中学校がそれぞれ１園（校）ずつであること、また、以前ＪＡが単独で存続していたことなどから他地区にはない地域の特異性や地域の繋がりがあり、郷土愛も強い。

しかしながら、人口の微減、少子高齢化は同地区も少しずつ進んできており、各集落の活力や地域全体の活力も停滞化してきている。

こうしたことから、平成 24 年度から、当地区では、地域住民自らが地域を今一度見つめ直し、地区の伝承や文化を再認識しその価値と魅力を高めようと、地域の活性化や賑わいづくりに繋がるような事業に取り組むこととし、麻那姫伝説継承事業に取り組んでいる。

平成 24 年度は麻那姫音頭の復活や麻那姫像の展示庫設置に取り組み、平成 25 年度は、麻那姫感謝祭の開催をはじめ、伝説の紙芝居作成、また、ヨサコイ麻那姫の作成など、麻那姫伝説に纏わる多様な事業に取組み、地区住民への周知と継承の意識付けを図った。平成 26 年度は、この麻那姫伝説継承事業を継続し、地域の賑わいと区民の絆を深め、地域の活性化を図るため、麻那姫感謝祭の継続や麻那姫街道の案内看板設置などに取り組んだ。平成 27 年度は麻那姫感謝祭やスポーツ等のイベントを更に盛大とするため、キャラクター「まなちゃん」の着ぐるみやスポーツ横断幕を整備した。平成２８年度はキャラクター入りのハッピ等を購入・着用し、麻那姫感謝祭の踊りの輪を広げ、また、マスコットをデザインしたのぼりを購入し、今後、各種スポーツイベントを盛り上げた。さらに、麻那姫広場に土を盛り、シバザクラを植栽するなど、地域の賑わいの創出に寄与した。

平成 29・30 年度は地区の史跡を整備する「小山城跡地遊歩道整備事業」を実施した。また、平成 30・令和元年度には、次世代に向けて地域活力維持のための「地域づくり講演会」を実施した。

３　事業の内容

麻那姫伝説継承事業は、地区住民に定着しつつあり、各種広報により伝説の周知などが図れてきた。

本年度は、引き続き、麻那姫伝説の普及に努めた。また、地区の史跡である小山城跡地の維

持管理に努めた。

昨年度同様、各種団体連絡協議会の団体である上庄をよくするつどいを主として、以下の事業に取り組んだ。

(1) 麻那姫のマスコット人形の作成

麻那姫伝説を身近に感じてもらえるよう、麻那姫を模したマスコット人形「まなちゃん」を23体作成した。これは、地元の子どもたちに親しみやすいよう、手のひらサイズとし、メダルとともに配布した。子どものころから地区に伝わる麻那姫に触れることで、地元への愛着心を育むことができた。

(2) 麻那姫ステッカーの作成

上のマスコット人形「まなちゃん」は、子ども向けに普及・啓発を目指したものだが、一般の方に向けては、まなちゃんのステッカーを1,000枚作成した。これは、上庄地区の行事の際に、チラシ等の配布物に貼付し、住民が目に触れる機会を増やすものである。

特に今年度は新型コロナウイルスの影響で、イベント等で住民が大人数で集まる機会がなかったが、麻那姫伝説が広まるよう工夫した。

(3) 麻那姫のイルミネーションの設置

コロナ禍の影響は大きく、地区の体育大会や夏まつり、敬老会など、大きな行事が軒並み開催見送りとなった。昨年度までは、これらの機会に、麻那姫伝説継承事業に取り組んでいたのだが、その普及・啓発も制限されることとなった。

しかし、この災禍を乗り越え、また、医療従事者等を力付けるため、全国各地でイルミネーションが点灯され始めた。上庄地区においても、

このような取組ができないかと考えた。その結果、麻那姫の「まなちゃん」をあしらい、疫病退散を祈願する「アマビエ」とともに、ＬＥＤイルミネーションを作成した。

これらを夜間に点灯することで、コロナで沈む上庄地区の雰囲気を少しでも明るくし、多くの住民を励ますことができた。ＬＥＤについて

は、今後の行事でも活用していきたい。

(4) 小山城跡地の遊歩道整備

上庄地区には史跡である小山城跡地（通称・城山）があり、これを地域の資源として生かすため、平 29 年度から遊歩道の整備を行っている。整備により、地区内外から人を呼び込み地域をさらに活性化していく。

今年度は 7 月 19 日に遊歩道の草刈りに、14 人の住民が集まり、郷土の史跡保全に努めた。

(5) まなちゃん（麻那姫）の知名度の向上

マスコットの着ぐるみ・まなちゃんを、様々なイベントに参加させることで、麻那姫及びその伝説を広く知ってもらった。一例としては、7 月 21 日、Ｂ＆Ｇ海洋センターのプールがリニューアルされた。このイベントに、上庄こども園の園児たちと参加し、地域の公共施設の新調をお祝いした。子どもたちにとっても、麻那姫伝説（まなちゃん）に触れるよい機会となって、ＰＲすることができた。

平成 29 年度に麻那姫音頭の普及を進めるため、踊り好きのメンバーを集めて、上庄踊り振興会を立ち上げた。この振興会が上庄公民館において、随時稽古し、上庄夏まつり等で普及・啓発に努めていた。しかし、今年度は夏まつり等の開催が見送られたが、市内の踊りを教育委員会がネットで発信する事業に取り組み、これに上庄踊り振興会 7 人も参加した。9 月 28 日に麻那姫湖で撮影された映像が、広く視聴できるようになり、普及することができた。

(7) 麻那姫展示庫の雪囲い

国道 157 号沿いに麻那姫像の展示庫が設置してあり、毎年冬の時期になると、雪囲いを設置している。今年度の冬もたいへんな大雪となったが、地区住民で 12 月 6 日に雪囲いをしたおかげで、被害に遭うこともなく、春の 3 月 20 日には片づけをし、来訪者に見に来ていただけるようになった。

４　事業の成果

継続して麻那姫伝説継承事業に取り組んだことで、上庄地区に住んでいながら麻那姫伝説を知らなかった人も、事業に参加することにより、事業の意義と伝説を継承していくという意識付けができたと思われる。

また、各種イベントにおいてもキャラクターを用いた着ぐるみなどを活用し、麻那姫伝説の周知による継承ができるようになった。

年間を通じて麻那姫伝説を広め、また、地区の史跡を整備することで、地区の子どもからお年寄りまでが関わりを持ち、触れることができ、地元上庄を愛する気持ちと誇りに思う意識が芽生えたのではないかと思われる。

5 今後の展望

今後は、麻那姫及びその伝説をさらに普及させることや、史跡を整備することで、地域内の活性化はもとより、地域外からも来場してもらえるよう取り組む必要がある。

子どもたちが上庄地区に愛着を持ち、将来はこの地に住み続けたくなるよう、これからも地区住民が協力し事業を実施していけるよう地域内の各界各層の団体が連携し取り組んでいく。